

ある日

娘二人と共に  
妖狐の封印に訪れた

元対魔巫女の  
詩織だったが――

二人とも  
そこに居て！

お母さん!?

お母さん開けて！  
一人じゃ無理だよ！

お母さあん！

この子達じゃ  
まだ無理な相手…

ククク…

どうにか私だけで  
相手しないと…っ

出来れば  
使いたく  
なかったけど…

封印術！

私の魂に  
直接封じ込めるわ！

昔より靈力は  
増えるから  
大丈夫なはず…！

う…っ

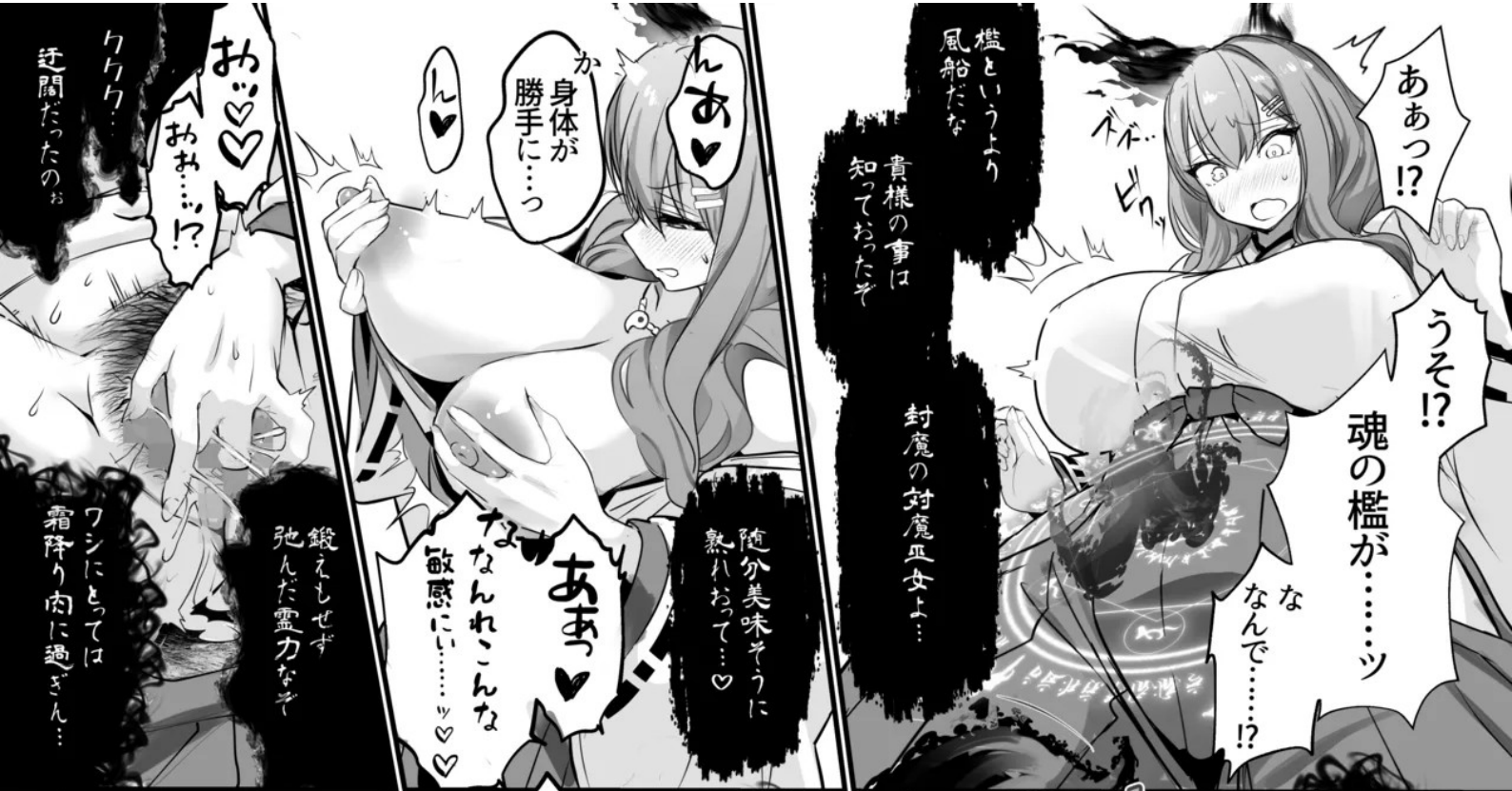
なんて重い  
邪気…っ

けど…

なんとか  
なつたわね

!?

ククク…



ああっ!?

うそ?!

魂の檻が……ッ

なんで……!?

檻というより  
風船だな

貴様の事は  
知っておたぞ

封魔の封魔巫女よ……

随分美味そうに  
熟八おつて……♡

か  
身体が  
勝手に……っ

ああ♡

な  
なんれこんな  
敏感にい……♡♡

鍛えしせず  
弛んだ靈力をぞ

お♡♡♡

おお……!?

ククク

迂闊だったのお

ワシにとっては  
霜降り肉に過ぎん……



せよ 快楽に堕ちて  
たふふりと蓄えた  
その靈力と肉を

ワシに寄こせ……っ

んおおお♡

手が止まる……♡♡♡

ダメ……♡

今イッたら  
娘たちがあま……♡

はあ……♡

んあッ♡♡

封印があッ♡♡

おおほお♡

おオッ♡

それムリいい♡

私の魂直接

侵されて……ッ♡

んお♡

あ……♡

ダメ♡♡♡

ダメ♡♡♡

イ……♡

グ……♡♡

逝ぐううう♡

2





お母さん!

良かった!  
無事だったんだね!

おおかあ...  
さん...?



ひっ

おいおい

流石はこの女の血を分けた良達...♡  
親子同士 楽しもうではないか♡

おかあさん!?

ククク♡  
美味そうな肉と塊じゃの♡

いゆあああ  
あああああ  
あああああ